

海外大学院進学・就職事情： 文系の場合

山本敬洋

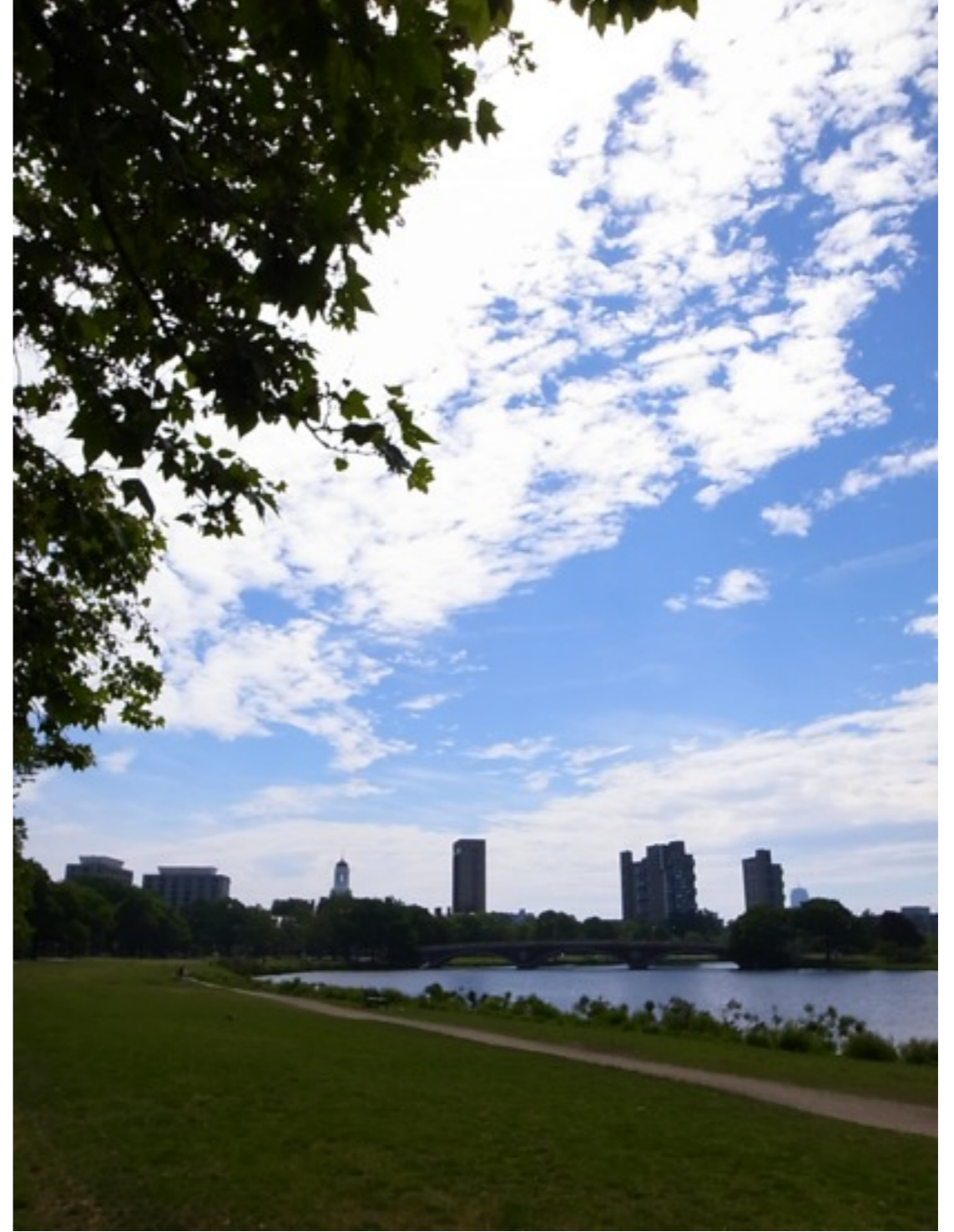
今日言いたいこと

- ▶ 卒業後のことを考えて大学院を選びましょう
- ▶ 口コミがもっとも有用な情報です
- ▶ もっと多様な人生の歩み方があっていい

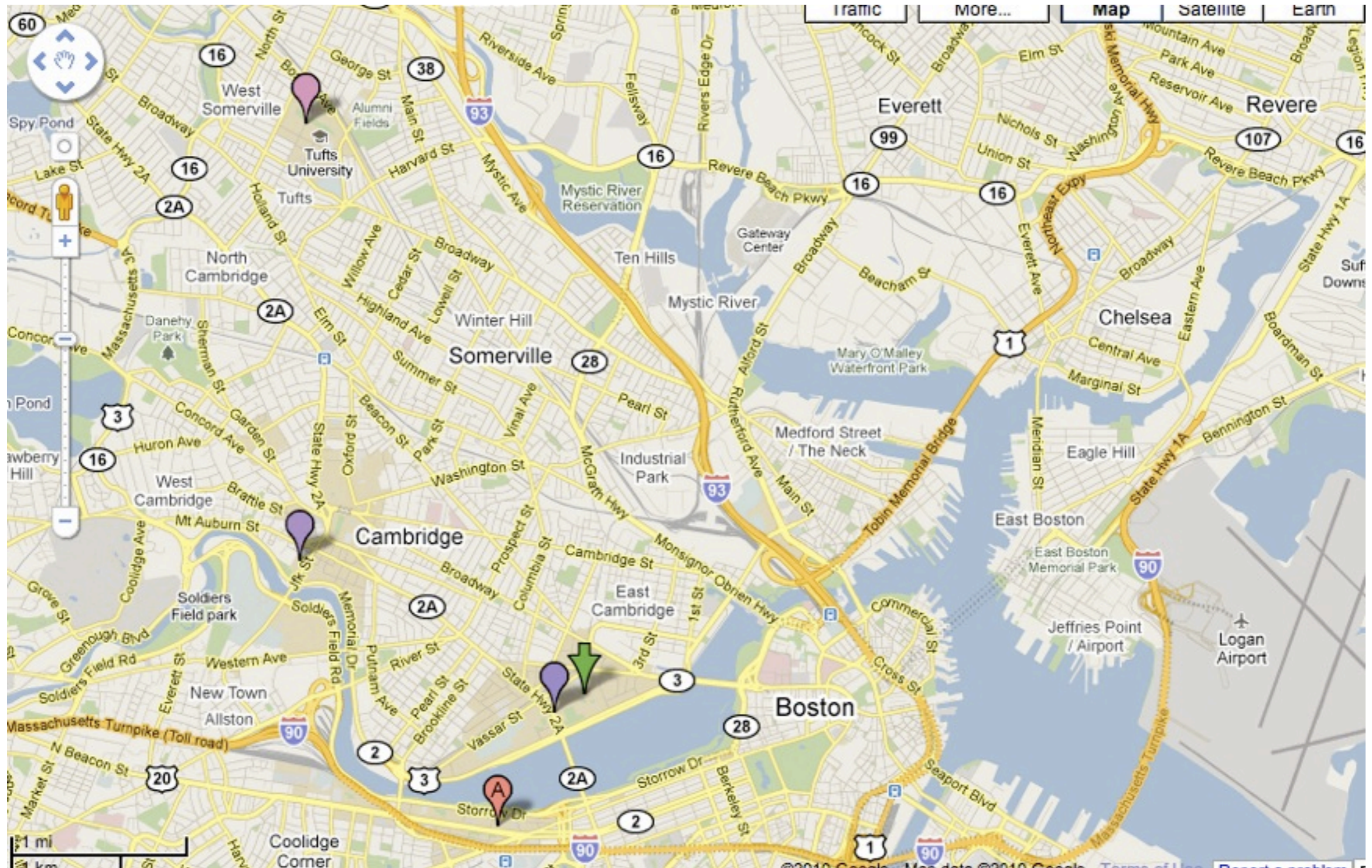
日本の公共政策大学院とアメリカのProfessional Schoolの違い

- ▶ 実務経験
- ▶ 卒業生とのつながり
- ▶ インターン

Boston (when it's nice)



The Greater Boston Area



奨学金事情、文系の場合

▶ 大学院が出しているもの

- ▶ アメリカのPhDの場合は理系とほぼ同様
- ▶ 修士レベルで、研究室のRAでカバーされるという話は聞かない... (経済は例外?)
- ▶ Professional schoolでも合格時に授業料減免、生活費等の条件提示はあるにはある
- ▶ 入学後に応募できる、在学生対象のものが実はある

▶ 日本の財団が出しているもの

- ▶ 学位取得目的の進学ではなく留学を前提とした制度も多い
- ▶ よって、日本の大学院の籍を残しておくほうが有利

留学中の費用

▶ 支出

- ▶ 探せば殆どの場所で東京と同等かそれ以下の家賃で住める
 - ▶ (例外：NY、ワシントンDC市内、ロンドン中心部)
- ▶ シェアハウスでコストカット
- ▶ There IS such a thing as free lunch

▶ 収入

- ▶ 学内でのアルバイト

文系海外院進学の特・デメリット

メリット

- ▶ 語学
- ▶ 人脈
- ▶ 度胸
- ▶ インターナショナルな環境での立ち居振る舞い、細かい常識

デメリット

- ▶ 日本での選択肢が狭まる
- ▶ 長期の雇用保障がないリスク

周りで見られた日本文系海外院生の 就職活動の実例

- ▶ ボストンキャリアフォーラム
- ▶ 日本での秋採用
- ▶ ウェブサイトの採用情報に随時直接応募
- ▶ 直接コンタクトをとる

※ビザの問題に注意（前回説明会の小野さんのスライドを参照）

http://www.ut-osac.org/today10s/slides_ono.pdf

就職活動一般に関する教訓

- ▶ リクナビに載っているだけが求人じゃありません
- ▶ 個別のウェブサイトにあたればいろんな情報が出てきます
- ▶ 小さな企業は採用に時間をかけられないので、こちらからアプローチする必要があります
- ▶ なんかいいいことあるかも、という発想

仕事の探し方

- ▶ 大学院のメーリス
- ▶ 大学院のキャリアサービス
- ▶ 大学院主催のイベント
- ▶ 各企業・機関のウェブサイトの採用情報
 - ▶ Current vacancies
 - ▶ General application
 - ▶ 直接コンタクト
- ▶ 友達・知人・先輩・教授
- ▶ 就職情報ウェブサイト
 - ▶ Idealist.org
 - ▶ Foreign Policy Association Job Board
- ▶ 転職雑誌
- ▶ その他、ネット全般
 - ▶ Twitter
 - ▶ LinkedIn
 - ▶ DevInfo

応募の仕方

- ▶ Cover letter
- ▶ CV

- ▶ Writing Sample
- ▶ 推薦状

- ▶ メール、電話

今からやっておくと役立つだろうこと

- ▶ 推薦状を書いてくれそうな人との繋がりを
- ▶ どこかで出版しておく
- ▶ 統計・ITスキルを身につける
 - ▶ Stata, SPSSとか
 - ▶ ウェブサイト系 (HTML、Dreamweaverとか)
 - ▶ グラフィック系 (Illustratorとか)
 - ▶ DTP系 (InDesignとか)
- ▶ インターンをしておく
 - ▶ とくに開発をやりたい人は現場へ

むすび

- ▶ **卒業後のことを考えて大学院を選びましょう**
 - ▶ 世界を飛び回る将来を求めているか
 - ▶ 不安定な雇用・日本に戻りにくくなるというリスクをとるか
- ▶ **口コミがもっとも有用な情報です**
 - ▶ 公開されているだけが情報ではない
 - ▶ コネで仕事を得ることは全く珍しくない
- ▶ **もっと多様な人生の歩み方があっていい**
 - ▶ 日本に帰ってくるときに考えていたこと
 - ▶ 「お上」という想像上の存在

諸君は永久に生きられるかのように生きている。
...満ち溢れる湯水でも使うように諸君は時間を浪費している。ところがその間に、諸君が誰かか何かかに与えている一日は、諸君の最後の日になるかもしれないのだ。諸君は今にも死ぬかのように全てを恐怖するが、いつまでも死なないかのようにすべてを熱望する。多数の人々が次のように言うのを聞くことがあろう。「私は五十歳から暇な生活に退こう。六十歳になれば公務から解放されるだろう。」では、おたずねしたいが、君は長生きするという保証でも得ているのか。...人生の残り物を自分自身に残しておき、何事にも振り向けられない時間だけを良き魂のために当てることを、恥ずかしいとは思わないか。

—セネカ『人生の短さについて』



Thank you

For inquiries: ty.takahiro@gmail.com